シラバス詳細

タイトル「2024年度シラバス」、カテゴリ「経済経営学類」

科目情報

6／11件

科目名

上級日本語１Ａ

講義名

上級日本語１Ａ

クラス

担当教員

井本　亮(e060@ipc.fukushima-u.ac.jp)

実務経験のある教員による講義

学年

1年、2年、3年、4年

キャンパス区分

金谷川キャンパス

開講学期

前期

開講時期

(前期)

曜日・時限

火２

講義室

講義室未設定

科目種別

通常講義(学類)

ナンバリング

科目区分

要卒外(ｼｽﾃﾑ用)

単位区分

要卒外

単位数

1

準備事項

備考

特修プログラム

直接参照URL

https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047340156471&formatCD=1

授業方法

講義、演習、実習、グループワーク、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報

授業概要とねらい

［概要］
本学の日本語科目（Ⅰ～Ⅳ）では、大学の学業に必要な「大学留学生の日本語能力」（アカデミック・ジャパニーズ）の習得を目指す。この日本語Ⅰでは、大学留学生の日本語リテラシーとして求められる「読解する・音読する力」を伸ばすための文章読解、「問題解決のためのコミュニケーション」を中心とした総合演習・活動を行う。
［ねらい］
文章を読んで正しく理解するとともに、効果的な文章理解のための読解スキルを学び、読解力の向上をめざす。また、文章の内容を自分の表現として平易に言い換えたる力を養う。語彙の読みなど音読の練習も行う。
［カリキュラムにおける当該科目の位置付け］
・外国語リテラシー（幅広い教養３－①）
・学問的思考の基礎（幅広い教養２）
・多角的・総合的思考（幅広い教養１）
・自己形成力／自己学習力（自己形成力1）

単位認定基準

(1)大学での講義・学生生活の場面に対応できる実践的な日本語の理解・産出ができる。
(2)内容語・機能語の適切な用法を理解し、正確な単文の作文・発話ができる。
(3)授業への出席、宿題提出、発話練習、発言や自己学習などを通して主体的に授業に参加していると判断できる。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：新聞記事漢字全部読み
第３回：シャドーイングについて
第４回：講義を聞く（聴解）
第５回：講義資料を読む（読解）
第６回：講義メモをまとめる①（聴読解）
第７回：問題解決コミュニケーション①要望を伝える
第８回：問題解決コミュニケーション②相手のリアクションを促す
第９回：問題解決コミュニケーション③紛失物
第１０回：問題解決コミュニケーション④アポイントメントを調整する
第１１回：文を理解するストラテジー①指示
第１２回：文を理解するストラテジー②複文
第１３回：文を理解するストラテジー③論理的含意・語用論的含意

第１４回：文を理解するストラテジー④論理構成
第１５回：授業で学んだことの習得度を問うまとめを行う。

※受講生の日本語能力・到達度・理解度に応じて、補助的・派生的・発展的な内容を追加的に導入することがあるため、授業の進度に変更が生じる場合がある。

授業計画（週形式）

教材・教科書

次のテキストを使用する予定：『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』その他、必要に応じてプリント資料を配布する。つねに日本語辞書を持参すること（電子辞書でもよい。ただし、スマートフォン・携帯電話・iPadなどタブレット端末の使用は教員の指示に従うこと）。
※課題提出や授業連絡にGoogle Classroomを使用するので、受講までにIPCアドレスで登録準備をしておくこと。クラス参加登録の準備ができ次第、Live Campusから履修登録者に周知する。
※LINEオープンチャットを用いてクラス内での情報共有や協働学習を行うことがある。LINEアプリが使えるスマートフォン等を持参すること。

参考図書

参考URL「シラバス掲載図書（井本亮）」を参照

参考URL

https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/rmbook/?lang=0&rmtype=1&reqCode=list&dptidpl=1&rmkey=51&rminf=%E4%BA%95%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE&rmnm=&codeno=7

授業外の学修、及び必要な学修時間

毎週、各課の宿題や語彙に関する課題などを課す。課題の提出を前提にした反転授業が基本的な授業スタイルになるため、そのための準備として各回１コマ程度の学習が必要である。
（単位制に基づき、少なくとも15時間の授業外学修時間を必要とする）

成績評価の方法

宿題＆課題提出・期末平常レポート・予習を含めた授業への主体的参加を評価する平常点の総合評価によって以下の目安にしたがって成績評価を行う。

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

金曜日10:30〜12:00。その他の曜日時間帯も応相談。まず、アポイントをとること。

授業改善・工夫

オンラインサービスを活用し、資料配布・授業連絡・情報共有・課題提出・ディスカッション・成果物のアーカイブなど、能動的活動のための環境を整備する。

留意点・注意事項

この科目は【交換留学生対象科目】である。学類基盤教育【日本語〇】と同じひとつのクラスとして開講する。

教員の実務経験の有無